

第 8 章 外国語

第 1	教科目標，評価の観点及びその趣旨	外 - 1
第 2	各科目の評価の観点の趣旨	外 - 1
第 3	必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例	外 - 3
	オーラル・コミュニケーション	外 - 3
	英語	外 - 8
第 4	単元の評価に関する事例	外 - 1 3
	オーラル・コミュニケーション	外 - 1 3
	英語	外 - 2 1

第8章 外国語

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨

1 教科目標

外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。

2 評価の観点及び趣旨

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。	外国語を用いて，情報や考えなど伝えたいことを話したり，書いたりして表現する。	外国語を聞いたり，読んだりして，情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。	外国語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。

第2 各科目の評価の観点の趣旨

	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
オーラル・コミュニケーション	コミュニケーションに関心を持ち，英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。	日常生活の身近な話題について，情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり，発表したりして表現する。	日常生活の身近な話題について，英語を聞いて，情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。	日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けるとともに，その背景にある文化などを理解している。
オーラル・コミュニケーション	コミュニケーションに関心を持ち，英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。	幅広い話題について，情報や考えなど伝えたいことを整理して英語で発表したり，話し合ったりして表現する。	幅広い話題について，英語を聞いて，情報や考えなど相手が伝えようとすることを整理して理解する。	幅広い話題についての英語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けるとともに，その背景にある文化などを理解している。
英語	コミュニケーションに関心を持ち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。	日常的な話題について，情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり，書いたりして表現する。	日常的な話題について，英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。	日常的な話題についての英語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けるとともに，その背景にある文化などを理解している。
英語	コミュニケーションに関心を持ち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。	幅広い話題について，情報や考えなど伝えたいことを整理して英語で話したり，書いたりして表現する。	幅広い話題について，英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなど相手が伝えようとすることを整理して理解する。	幅広い話題についての英語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けるとともに，その背景にある文化などを理解している。
リーディング	コミュニケーションに関心を持ち，英語を読む言語活動を積	文章の内容や自分の解釈が聞き手に伝わるように効果的に音	さまざまなジャンルの英語を読んで，必要な情報や書き手の	英語を読むことの学習を通して，言語やその運用についての

	極的に行い，コミュニケーションを図ろうとする。	読するなどして表現する。	意向などを理解する。	知識を身に付けるとともに，その背景にある文化などを理解している。
ライティング	コミュニケーションに関心を持ち，英語で書く言語活動を積極的に行い，コミュニケーションを図ろうとする。	情報や考えなど伝えたいことを，場面や目的に応じて整理し，英語で書いて表現する。		英語で書くことの学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けるとともに，その背景にある文化などを理解している。

第3 必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

オーラル・コミュニケーション

1 目標

日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、英語を聞いたり話したりして積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常生活の身近な話題について、情報や考えなどを伝えたいことを英語で話したり、発表したりして表現する。	日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。	日常生活の身近な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解している。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

オーラル・コミュニケーション では、学習指導要領の言語活動に示されているコミュニケーション活動を内容のまとめりとした。すなわち次の通りである。

- ア 英語を聞いてその内容を理解するとともに、場面や目的に応じて適切に反応する。
- イ 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。
- ウ 情報や考えなどを、場面や目的に応じて適切に伝える。
- エ 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを理解する。

以上ア～エのコミュニケーション活動を、それぞれ、

アは、聞いて理解し、また聞いて応じることなので「聞くこと/聞いて応じること」、

イは、「相手に質問したり、相手の質問に答えたりすること」が対話を意味するので「対話すること」、

ウは、話すことを中心に展開することなので「話すこと」、

エは、スピーチやプレゼンテーションなど口頭で発表を行うことなので「口頭で発表すること」ととらえ、これらごとに評価規準を作成した。

(1) 「聞くこと/聞いて応じること」

【学習指導要領の内容】

- ア 英語を聞いてその内容を理解するとともに、場面や目的に応じて適切に反応する。

【「聞くこと/聞いて応じること」の評価規準】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
「聞くこと/聞いて応じること」の言語活動に積極的に取り組んでいる。		日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとするを正確に理解することができる。	日常生活の身近な話題について、「聞くこと/聞いて応じること」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。
さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。		日常生活の身近な話題について、場面や目的に応じて適切に聞くことや聞いて反応することができる。	日常生活の身近な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。

【「聞くこと/聞いて応じること」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て話を聞いた り、必要に応じてメモ を取るなど、相手の話 に関心をもっている。 ・聞いたことについてジ ェスチャーや簡単なこ とばで応答したりして いる。 <p>(コミュニケーションの 継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解できないところが あっても、推測するな どして聞き続けてい る。 ・理解できないとき、確 認したり、繰り返しや 説明を求めたりしてい る。 		<p>(正確な聞き取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムやイントネー ションなど基本的な英 語の音声の特徴をとら え、正しく聞き取るこ とができる。 ・聞いた内容について正 しく理解することがで きる。 <p>(適切な聞き取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞いた内容について大 切な部分を把握するこ とができる。 ・質問、依頼、指示など に対して、適切に応じ ることができる。 ・自然な口調で話され たり読まれたりする英 語の内容を聞き取るこ とができる。 	<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連音や音変化などを 聞き分ける知識がある。 ・場面や状況による強 勢やイントネーション の違いを理解している。 ・場面や状況、目的に 応じた表現を知って いる。 ・「聞くこと/聞いて 応じること」に用いら れている語句や文法を 知っている。 <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーなど非 言語的なコミュニケー ション手段の役割や用 い方を理解している。 ・家庭、学校や社会に おける日常生活や風 俗習慣などを理解して いる。 ・人々のものの見方 や考え方などの違い について理解している。

(2) 「対話をする事」

【学習指導要領の内容】

イ 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。

【「対話をする事」の評価規準】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>対話による言語活動に積 極的に取り組んでいる。</p>	<p>日常生活の身近な話題で 関心のあることにつ いて、英語で正しく話 すことができる。</p>	<p>日常生活の身近な話題 について、相手が伝え ようとするを正確に理 解することができる。</p>	<p>日常生活の身近な話題 について、「対話をする こと」の学習で取り扱 われた言語や言語の運 用についての基本的な 知識を身に付けてい る。</p>
<p>さまざまな工夫をする ことで、コミュニケーション を続けようとしている。</p>	<p>日常生活の身近な話題 で関心のあることにつ いて、英語で適切に質 問したり答えたりする ことができる。</p>	<p>日常生活の身近な話題 について、相手が伝え ようとするを、場面や 目的に応じて適切に 聞き取り、応答するこ とができる。</p>	<p>日常生活の身近な話題 についての英語の学 習で取り扱われた文化 について理解している。</p>

【「対話をする事」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
(言語活動への取組)	(正確な対話)	(正確な対話)	(言語についての知識)

<ul style="list-style-type: none"> ・間違ふことを恐れず関心のあることについて相手に質問している。 ・自ら学んだ表現などを使って話している。 ・相づちを打つなど、相手の話に関心を持って聞いている。 ・相手の質問に積極的に答えようとしている。 ・ペア・ワークなどにおいて積極的に協力しあっている。 <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまく言えないことがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 ・つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。 ・交互に話し手や聞き手として、対話が続くように協力しあっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて話すことができる。 ・文法に従って話すことができる。 ・話そうとすることを相手に正確に伝えることができる。 <p>(適切な対話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な話題を選んで話すことができる。 ・話題や相手によって語句や表現を選んで対話を始め、継続し、終わらせることができる。 ・適切な速さや声の大きさで話すことができる。 ・相手の理解を確認し、それに応じて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強勢やイントネーションなどから、話し手の意図などを正しく理解することができる。 ・相手の話の内容を正しく聞き取ることができる。 <p>(適切な対話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然な口調で話された英語の内容を聞き取ることができる。 ・聞かれたことに対して素早く適切に応じることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連音や音変化などを聞き分ける知識がある。 ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 ・「対話をする事」に用いられている語句や文法を知っている。 <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。 ・人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。
---	---	--	--

(3) 「話すこと」

【学習指導要領の内容】

ウ 情報や考えなどを、場面や目的に応じて適切に伝える。

【「話すこと」の評価規準】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。</p>	<p>日常生活の身近な話題について、情報や考えなどを英語で正しく話すことができる。</p> <p>日常生活の身近な話題について、場面や目的に応じて英語で適切に話すことができる。</p>		<p>日常生活の身近な話題について、「話すこと」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。</p> <p>日常生活の身近な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。</p>

【「話すこと」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違ふことを恐れず自分の考えなどを話している。 	<p>(正確な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて話すことができる。 		<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。

<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学んだ表現などを使って話している。 ・関心を持って質問している。 ・ペア・ワークやグループ・ワークなどにおいて積極的に協力しあっている。 <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまく言えないことがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 ・つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法に従って話すことができる。 ・伝えたい情報や考えなどを正確に話すことができる。 <p>(適切な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や目的に応じて語句や表現を選択し、適切に話すことができる。 ・相手の発話に対して適切に応答することができる。 ・場面や目的に応じて適切な速さや声の大きさを話すことができる。 ・相手の理解を確認しそれに応じて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 ・「話すこと」に用いられている語句や文法を知っている。 <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。 ・人々のものの見方や考え方の違いについて理解している。
---	---	--

(4) 「口頭で発表すること」

【学習指導要領の内容】

エ 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどをまとめ、発表する。また、発表されたものを理解する。

【「口頭で発表すること」の評価規準】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>口頭で発表することの言語活動に、話し手や聞き手として、積極的に参加している。</p>	<p>日常生活の身近な話題について、情報や自分の考えなどを英語で正しく発表することができる。</p>		<p>日常生活の身近な話題について、「口頭で発表すること」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。</p>
<p>さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。</p>	<p>日常生活の身近な話題について、場面や目的に応じて内容を整理し、英語で適切に発表することができる。</p>		<p>日常生活の身近な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。</p>

【「口頭で発表すること」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違ふことを恐れず情報や自分の考えなどを発表している。 ・自ら学んだ表現などを使って発表している。 ・発表するための情報を積極的に収集して 	<p>(正確な発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて発表することができる。 ・文法に従って、正しく話すことができる。 ・伝えたい情報や考えな 		<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 ・「口頭で発表すること」

<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を見て発表を聞いたり，必要に応じてメモを取るなど，相手の話に関心をもっている。 ・聞いたことについて主体的に意見やコメントを述べようとしている。 <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解してもらえるように，別の語句や表現で言い換えたり，説明して伝えるなどの工夫をしている。 ・つなぎ言葉を用いるなど，不自然な沈黙をせず話し続けている。 ・発表者の考えなどについて，確認したり説明を求めたりしている。 	<p>どを，聴衆に正確に話すことができる。</p> <p>(適切な発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいポイントを整理して発表することができる。 ・伝えたい内容や話題などに応じて，適切な表現を選択し，発表することができる。 ・聞き手の立場に立って，イラストや写真を使うなど工夫をこらして発表することができる。 	<p>に用いられている語句や文法を知っている。</p> <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・家庭，学校や社会における日常の生活や風俗習慣などを理解している。 ・人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。
---	--	---

英語

1 目標

日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	日常的な話題について、情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり、書いたりして表現する。	日常的な話題について、英語を聞いたり、読んだりして、情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解している。

3 学習指導要領及び内容のまとめりごとの評価規準

英語 では、学習指導要領の言語活動に示されているコミュニケーション活動を内容のまとめりとした。すなわち次の通りである。

- ア 英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- イ 英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- ウ 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて話し合ったり意見の交換をしたりする。
- エ 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、整理して書く。

以上ア～エのコミュニケーション活動を、それぞれ

- アは、聞いて理解することなので、「聞くこと」、
- イは、読んで理解することなので、「読むこと」、
- ウは、話すことを中心に展開することなので、「話すこと」、
- エは、書いて表現することなので、「書くこと」

ととらえ、これらごとに評価規準を作成した。

(1) 「聞くこと」

【学習指導要領の内容】

ア 英語を聞いて、情報や話し手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

【「聞くこと」の評価規準】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
「聞くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。		日常的な話題についての英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとするを正確に理解することができる。	日常的な話題について、「聞くこと」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。
さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。		日常的な話題についての英語を場面や目的に応じて適切に聞き取ることができる。	日常的な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。

【「聞くこと」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
(言語活動への取組) ・相手を見て話を聞いたり、必要に応じてメモを取るなど、相手の話		(正確な聞き取り) ・リズムやイントネーションなど基本的な英語の音声の特徴をとら	(言語についての知識) ・連音や音変化などを聞き分ける知識がある。 ・場面や状況による強勢

<p>に関心をもっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞いたことについてジェスチャーや簡単なことばで応答したりしている。 ・聞いた内容について意見や感想を述べようとしている。 <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解できないところがあっても、推測するなどして聞き続けている。 ・理解できないとき、確認したり、繰り返しや説明を求めたりしている。 		<p>え、正しく聞き取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞いた内容について正しく理解することができる。 <p>(適切な聞き取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞いた内容について概要や要点を把握することができる。 ・さまざまな口調や速度で話されたり読まれたりする英語の内容を聞き取ることができる。 	<p>やイントネーションの違いを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 ・「聞くこと」に用いられている語句や文法を知っている。 <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段の役割や用い方を理解している。 ・家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。 ・人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。
--	--	--	--

(2) 「読むこと」

【学習指導要領の内容】

イ 英語を読んで、情報や書き手の意向などを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

【「読むこと」の評価規準】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>「読むこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。</p>	<p>日常的な話題についての英語を正しく音読したり暗唱したりすることができる。</p> <p>日常的な話題についての英語で書かれた内容が表現されるように適切に音読したり暗唱したりすることができる。</p>	<p>日常的な話題についての英語を読んで、情報や考えなど書き手の伝えようとするを正確に理解することができる。</p> <p>日常的な話題についての英語を場面や目的に応じて適切に読み取ることができる。</p>	<p>日常的な話題について、「読むこと」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。</p> <p>日常的な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。</p>

【「読むこと」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてメモを取るなど、読んでいる内容に関心をもっている。 ・読んだ内容について意見や感想を述べようとしている。 ・必要に応じて辞書など 	<p>(正確な音読)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しいリズムやイントネーションなどを用いて、音読したり暗唱したりすることができる。 	<p>(正確な読み取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書かれた内容について正しく読み取ることができる。 	<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 ・文字や符号を識別する知識を身に付けている。 ・場面や状況、目的に応じた表現を知ってい

<p>を活用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音読や暗唱に積極的に取り組んでいる。 			<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の流れについての知識がある。 「読むこと」に用いられている語句や文法を知っている。
<p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> 理解できないところがあっても、推測するなどして読み続けている。 	<p>(適切な音読)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章の意味や作者の意向などを考えて適切に音読したり暗唱したりすることができる。 	<p>(適切な読み取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> 読んだ内容について概要や要点を把握することができる。 文や文章を目的に応じた適切な速さで読み取ることができる。 	<p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣などを理解している。 人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。

(3) 「話すこと」

【学習指導要領の内容】

ウ 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。

【「話すこと」の評価規準】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>日常的な話題について英語で情報や考えなどを正しく話すことができる。</p>		<p>日常的な話題について、「話すこと」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。</p>
<p>さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。</p>	<p>日常的な話題について、場面や目的に応じて、英語で適切に話すことができる。</p>		<p>日常的な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。</p>

【「話すこと」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 間違ふことを恐れず自分の考えなどを話している。 自ら学んだ表現や進んで集めた情報などを使って話している。 関心をもって質問している。 ペア・ワークやグループ・ワークなどにおいて積極的に話し合ったり意見の交換をしている。 	<p>(正確な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しいリズムやイントネーションなどを用いて話すことができる。 文法に従って正しく話すことができる。 伝えたい情報や考えなどを正確に話すことができる。 		<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解している。 場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 「話すこと」に用いられている語句や文法を知っている。
<p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> うまく言えないことが 	<p>(適切な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容、場面、相手、目的などに応じ 		<p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション

<p>あっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つなぎ言葉を用いるなど、不自然な沈黙をせず話し続けている。 	<p>て語句や表現を選択し、適切に話すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の発話に対して適切に応答することができる。 ・場面や目的に応じて適切な速さや声の大きさを話すことができる。 ・相手の理解を確認しそれに応じて話すことができる。 	<p>ョン手段の役割や用い方を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭、学校や社会における日常の生活や風俗習慣などを理解している。 ・人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。
--	---	---

(4) 「書くこと」

【学習指導要領の内容】

エ 聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、整理して書く。

【「書くこと」の評価規準】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</p> <p>さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。</p>	<p>日常的な話題について、得た情報や自分の考えを英語で正しく書くことができる。</p> <p>日常的な話題について、場面や目的に応じて、英語で適切に書くことができる。</p>		<p>日常的な話題について、「書くこと」の学習で取り扱われた言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。</p> <p>日常的な話題についての英語の学習で取り扱われた文化について理解している。</p>

【「書くこと」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違ふことを恐れず自分の考えなどを書いていく。 ・自ら進んで書いたものを読み直し、意欲的に書き直したりしている。 ・自ら学んだ表現や進んで集めた情報などを使って書いている。 ・必要に応じて辞書などを活用している。 <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりうまく伝えるように、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 ・表現できないところが 	<p>(正確な筆記)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法に従って正しく書くことができる。 ・伝えたい情報や考えなどを正確に書くことができる。 <p>(適切な筆記)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容を整理し、必要な分量を書くことができる。 ・伝えたい内容、場面、読み手、目的などに応じて、語句や表現を選択し適切に書くことが 		<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字や符号などを使い分ける知識を身に付けている。 ・場面や状況、目的に応じた表現を知っている。 ・文章構成についての知識がある。 ・「書くこと」に用いられている語句や文法を知っている。 <p>(文化についての理解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭、学校や社会における日常の生活や風俗習慣などを理解している。 ・人々のものの見方や考え方などの違いについて理解している。

あっても知っている語句や表現を用いて書き続けている。

できる。
・文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。

第4 単元の評価に関する事例

ここでは、指導と評価の工夫を行った事例として、オーラル・コミュニケーション、英語の2科目について、各1事例を紹介する。

オーラル・コミュニケーション

ここでは、オーラル・コミュニケーションにおける教科書のある1課(以下、本課と称す)を用いて授業を行い、「聞くこと/聞いて応じること」「対話をする」と「話すこと」の三つの「内容のまとめ」における評価の事例を紹介する。この事例における評価は、指導の結果その内容がどの程度身に付いているかを評価するという観点から示したものであり、指導の途中段階あるいは練習段階にある内容については総括につながる評価は行わない。また、学習指導要領の趣旨にかんがみ、コミュニケーション活動を通して評価することとしている。

なお、この課では「対話をする」を主たる活動とするが、他の「内容のまとめ」、すなわち「聞くこと/聞いて応じること」「話すこと」についても適切に言語活動を行い、評価の対象とする。また、この事例では、1課を単元と見なすこととする。

本課の名称 「Can I Take a Message?」(5時間)(第1学年 9月)

1 本課の目標

- (1) 電話で基本的な対話をすることができる。
- (2) 留守番電話にメッセージを残すことができる。
- (3) うまく言えないところがあっても、工夫してコミュニケーションを行う。
- (4) 電話でよく用いられる表現を理解する。

2 本課の評価規準

- (1) 具体例【聞くこと/聞いて応じること・対話をする・話すこと】

	ア 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 知識・理解
内容のまとめの中の該当する評価規準	さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。 (対話をする)	日常生活の身近な話題について、情報や考えなどを英語で正しく話すことができる。 (話すこと) 日常生活の身近な話題で関心のあることについて、英語で適切に質問したり答えたりすることができる。 (対話をする)	日常生活の身近な話題について、英語を聞いて、情報や考えなど相手が伝えようとすることを正確に理解することができる。 (聞くこと/聞いて応じること)	言語や言葉の運用についての基本的な知識を身に付けている。
具体の評価規	(コミュニケーションの継続) うまく言えないところがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている。 (対話をする)	(正確な発話) 伝えたい情報や考えなどを留守番電話に正確に残すことができる。 (話すこと) (適切な対話) 電話において、話題や相手に応じて対話を始め、継続し、終わらせるこ	(正確な聞き取り) 電話の内容について正しく聞き取ることができる。 (聞くこと/聞いて応じること)	(言語についての知識) 電話で用いられる表現を知っている。

準		とができる。 (対話をすること)		
---	--	---------------------	--	--

(2) 解説

「オーラル・コミュニケーション」の評価規準の設定の考え方について

「オーラル・コミュニケーション」の評価規準及びその具体例の全体については、本資料の第3「必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例」に示されている。

「オーラル・コミュニケーション」の評価規準及びその具体例を参考として、以下のように四つの観点ごとに、コミュニケーション能力をとらえる視点を取り上げ、それにしたがって具体的評価規準を設定した。

ア 関心・意欲・態度

コミュニケーションに取り組む様子やコミュニケーションを継続させようとする努力の様子をとらえて以下の二つの視点から具体的評価規準を設定する。

(ア) 言語活動への積極的な取組

情報や自分の考えなどを積極的に相手に伝えようとしたり、相手の考えなどを理解しようとしているかどうか、つまり、コミュニケーションに取り組む構えを評価する。したがって、ここでは、英語を使用する正確さや適切さ、すなわち、運用上の能力などを評価の対象としない。

(イ) コミュニケーションを継続する努力

コミュニケーションがとぎれそうな時には、さまざまな手だてを用いてコミュニケーションを継続する努力が必要となる。その努力の様子を評価する。

イ 表現の能力

自分の考えや気持ちなどを誤解なく相手に伝えることができるかどうかについて以下の二つの視点から具体的評価規準を設定する。

(ア) 正確さ

リズム、イントネーション、文法などの規則に従って正確に表現できているかどうかを評価する。また、情報の内容に間違いがなく正確に伝わっているかどうかを評価の対象とする。

(イ) 適切さ

実際のコミュニケーションで誤解なく伝えるために、場面や状況に応じてふさわしい表現を選択したり、適切な声の大きさや速さで話すことができているかどうかを評価する。

ウ 理解の能力

相手の意向や具体的な情報など相手が伝えようとすることを理解できるかどうかについて以下の二つの視点から具体的評価規準を設定する。

(ア) 正確さ

リズム、イントネーション、文法など言語についての知識を活用して、英語の内容を正しく理解できているかどうかを評価する。

(イ) 適切さ

場面や状況、目的に応じた聞き方をして英語を理解したり、適切に応じることができているかどうかを評価する。

エ 知識・理解

コミュニケーションを目的として言語を運用する支えになっているかどうかについて以下の二つの視点から具体的評価規準を設定する。

(ア) 言語についての知識

正確さの支えとなるリズム、イントネーション、文法など言葉のもつ仕組みについての知識だけでなく、適切さの支えとなる言語の働きや、場面にふさわしい表現など言語運用面についての知識も評価の対象とする。

(イ) 文化についての理解

幅広い意味での文化に関する理解ではなく、円滑なコミュニケーションに必要とされる、社会言語的な側面での文化についての理解に限って評価する。

以上述べたように、「オーラルコミュニケーション」では四つの観点ごとにそれぞれ二つの視点から具体的評価規準を設定することが考えられる。そのうち、それぞれの「内容のまとめり」に対応するものが、以下の表の である。

区 分	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	取 組	継 続	正 確 さ	適 切 さ	正 確 さ	適 切 さ	言 語	文 化
聞く			-	-				

対話						
話す				-	-	
発表				-	-	

(3) 課ごとの具体的評価規準の設定の手順について

ここでは、教科書の1課を取り上げて、具体的評価規準の設定の手順について説明する。

ア 最初の目標である「電話で基本的な対話をすることができる。」においては、電話で話すこと(「対話をする事」)は「表現の能力」の観点で、電話を聞いて理解すること(「聞くこと」)は「理解の能力」の観点で評価する。

イ このうち電話で話すこと(「対話すること」)には、話題や相手に応じて話すことが求められるので、「適切さ」の視点から、また、理解すること(「聞くこと」)については、電話の内容を正しく聞き取ることが求められるので、「正確さ」の視点から評価規準を設定した。

ウ 二つ目の目標である「留守番電話にメッセージを残すことができる。」では、必要な情報を正しく残すこと(「話すこと」)が必要なので、ここでは「表現の能力」の「正確さ」の視点から評価規準を設定した。

エ 三つ目の目標は「関心・意欲・態度」(「対話をする事」)の「コミュニケーションの継続」、四つ目は「知識・理解」の「言語についての知識」で評価規準を設定した。

このように考え、この課では、以下の表に示す五つの に対応して、具体的評価規準を設定し、指導と評価の計画を行う。

規 準 内 容	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	取 組	継 続	正 確 さ	適 切 さ	正 確 さ	適 切 さ	言 語	文 化
聞く			-	-				
対話								
話す					-	-		
発表					-	-		

3 指導と評価の計画

(1) 具体例

時間	ねらい・学習活動	具体の評価標準との関連	評価方法等
1	<p>電話での会話で用いられる基本的な表現を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本課で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・Model Dialogues を用いて，中学校で学んだ電話の基礎的な表現を復習する。 ・「かけ直し」や「間違い電話」の会話を聞いて内容を理解し，電話での慣用表現を拾い出す。 ・拾い出した表現を活用して，ペアで電話で対話する。 ・電話の対話をクラスに発表する。 ・本時に学習した電話での慣用表現の使い方についてまとめる。 		
2	<p>留守番電話のメッセージを聞いて，その内容を理解することができる。留守番電話に簡潔なメッセージを残すことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの異なる留守番電話のメッセージを聞いて，それぞれの大切な情報を聞き取る。 ・メモを基に発表する。 ・教師が示した状況で留守番電話に入れるメッセージを考え，ペアで伝えあう。 <p>状況1：部活の時間が変更になった。 状況2：台風で明日学校が休みになった。</p> <p>など。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定された状況でメッセージを作り，留守番電話として録音する。 <p>・いくつかの状況で録音された留守番電話を聞いて，要点を聞き取る。</p> <p>・電話でよく用いられる表現を活用してペアで対話する。</p>	<p>イの</p> <p>ウの</p> <p>アの</p>	<p>方法：録音チェック 手順：5～6人のグループに1台のテープレコーダを用意して録音する。録音されたテープを後で聞いて，必要な情報を正確に残しているかどうかをチェックする。 判断：必要な情報を正確に残すことができていると評価する。 (慣用表現について個別指導する。)</p> <p>方法：ワークシートチェック 手順：電話の内容を聞き取る時のポイントをワークシートに書いて配布しそれを基にメモが書いているかどうかをチェックする。 判断：正しく聞き取ることができていればと評価する。 (聞き取りのポイントを個別指導する。)</p> <p>方法：活動の観察 手順：うまく言えないことがあっても，工夫をして伝えているかどうか</p>

			を観察する。 判断：工夫して伝えていれば と評価する。 (話しやすい雰囲気を作る。)
3	<p>電話で友人を誘って待ち合わせの約束をしたり，相手の誘いに対して別の提案をすることができる。 留守番電話のメッセージを聞いて，その内容を理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勧誘や待ち合わせの電話での会話を聞く。 ・勧誘や待ち合わせに用いられる表現を拾い出す。 ・電話の応じ方を理解する。 ・拾い出したその表現を使い，場面を工夫してペアで対話をする。 <p>・ペアでクラスの前で発表する。 ・誘いや待ち合わせの電話の会話を聞き，必要な情報を聞き取る。</p>	<p>アの</p> <p>ウの</p>	<p>方法：活動の観察 手順：うまく言えないことがあっても，工夫をして伝えているかどうかを観察する。 判断：工夫して伝えていれば と評価する。 (話しやすい雰囲気を作る。)</p> <p>方法：ワークシートチェック 手順：電話の内容を聞き取る時のポイントをワークシートに書いて配布し，それを基にメモが書けているかどうかをチェックする。 判断：正しく聞き取ることができていれば と評価する。 (聞き取りのポイントを個別指導する。)</p>
4	<p>電話で買った商品についての苦情などを言うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦情電話の会話を聞き，必要な情報を聞き取る。 ・苦情の言い方や対応の仕方を参考にし，自分が苦情を言う時のメモを作る。 ・そのメモを用いてペアで電話で対話をする。 ・ペアで電話の対話をする。 ・設定された場面や状況で，電話での対話を録音する。 	イの	<p>イの について 方法：録音チェック 手順：5～6人のグループに1台のテープレコーダを用意して録音する。 録音されたテープを後で聞いて，苦情が言えているどうかをチェックする。 判断：苦情が言えていれば と評価する。 (対話で用いられる英文や慣用表現を個別指導する。)</p>
5	<p>本課で学習した状況において，電話での基本的なやりとりが正しく適切にできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が提示したいいくつかの場面や状況で，ペアで電話の会話をを行う。 		

	<p>・与えられた場面や状況で電話での会話をする。 1：留守番電話の録音</p> <p>2：電話での対話：友人との対話</p>	<p>イの</p> <p>イの , 工の</p>	<p>方法：録音チェック 手順：5～6人のグループに1台のテープレコーダを用意して録音する。録音されたテープを後で聞いて、必要な情報を正確に残しているかどうかをチェックする。 判断：必要な情報を残すことができていると評価する。 (英文や慣用表現の使い方を個別指導する。)</p> <p>イの について 方法：ダイアログ・チェック 手順：提示された場面や状況で電話で用いられる表現を使って電話のやり取りができているかどうかをチェックする。 判断：電話で用いられる表現を用いた電話のやり取りができれば と評価する。 (対話で用いられる英文や慣用表現を個別指導する。)</p> <p>工の について 方法：ダイアログ・チェック 手順：提示された場面や状況で電話で用いられる表現を使っているかどうかをチェックする。 判断：用いていれば、知っているとして と評価する。 (知っているが使えないのかどうかを見極めて、知らない場合は再度説明する。) 以上2点を評価表/チェック表にまとめて評価する。</p>
後日	<p>ペーパーテスト ・電話の様々な場面の適当な表現を選択する問題など</p>	工の	<p>方法：ペーパーテスト 手順：対話文の空所に適当な表現を選択して当てはめる問題に解答する。 判断：選択できれば と評価する (補足説明を行う。)</p>

- (注)・「ねらい・学習活動」欄の 印は各単位時間のねらいを、・印は具体的な学習活動を表している。
- ・()内は「努力を要すると判断される」状況(C)(4 観点別評価の進め方参照)と評価される生徒への指導の手だての例を示している。
 - ・各時に示されている評価方法等は、すべてをその時間内に評価することを意味しているわけではなく、録音をチェックすることや後日ペーパーテストなど授業後に別の機会に行う場合もある。

(2) 解説

評価計画の作成の仕方とその際の配慮事項

設定した具体的評価規準を使って、指導過程のどの部分で、どのような方法で評価するのかを、指導と評価の一体化を図りながら工夫する必要がある。次に、その際に配慮すべき点を説明する。

ア 評価は指導した活動(内容)に対して行うものである。

実現の状況の評価するのであるから、評価する前に十分に指導し練習をさせておかなければならない。したがって、例えば、第2時間目で「表現の能力」の「伝えたい情報や考えなどを留守番電話に正確に残すことができる。」を評価することとしているが、評価する前の段階で、留守番電話

- のメッセージを聞いたり、残すメッセージを考えてペアで伝えあう練習を十分にさせる必要がある。
- イ 適切な方法で評価する。
 評価する際には、評価対象を的確に評価しなければならない。そのためにはその対象を測るのにもっともふさわしい方法を用いる必要がある。
 事例の中では、様々な生徒の活動を通してコミュニケーション能力を評価しようとしている。
 例えば、生徒の活動の様子を観察する方法、ワークシートを課してそのシートをチェックする方法、さらに、実際に録音させてテープをチェックする方法を用いるなどの工夫をしている。
 とりわけ、知識については、まずパフォーマンスをさせて、その際用いられている音声や文法、表現などをみることで、それらの知識が備わっているかどうかを判定する。ただ、知識があっても直ちにその知識を運用できないこともあるので、それをみるためにペーパーテストを用いる。
- ウ それぞれの評価規準については、信頼性を高めるために複数回の評価の機会を設定する。
 具体的評価規準に照らして評価を行う際には、評価の信頼性を高めるために複数回の評価を行う必要がある。なぜなら活動内容、話題、相手などにより、パフォーマンスは異なった現れ方をするからである。
 そこで、この事例の中ではすべての具体的評価規準について複数回の評価の機会を設定している。
- エ その他
 本事例では、一つのモデルとして、1課ですべて完結した場合を示している。しかしながら、安定性や確実性を高めるために、かなりの時間を要する場合は、複数課にまたがって継続的に指導して評価を行うことが望ましい場合もある。

4 観点別評価の進め方

(1) 考え方

具体的評価規準は、「おおむね満足できると判断される」状況（B）を示すものとして設定しており、この状況を実現すれば（B）となり、そうならなければ「努力を要すると判断される」状況（C）となる。

具体的評価規準に照らして「十分満足できると判断される」状況（A）の例及び「努力を要すると判断される」状況（C）の生徒への指導の手だてを以下に記述する。

ア 「関心・意欲・態度」について

具体的評価規準 「うまく言えないことがあっても、別の語句や表現で言い換えたり、説明して伝えるなどの工夫をしている」については、常に相手に伝える工夫をしていると認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。また、「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だてとしては、話しやすい雰囲気をつくったり、慣用表現などを個別指導したりする。

イ 「表現の能力」について

具体的評価規準 「伝えたい情報や考えなどを留守番電話に正確に残すことができる」については、常に伝えたい情報や考えなどを正確に残すことが認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。

具体的評価規準 「電話において、話題や相手によって対話を始め、継続し、終わらせることができる」については、常にふさわしい語句や表現を選択して電話で会話をするできると認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。また、「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だてとしては、発表する英文や対話する時に用いられる英文について、補足説明をするなど必要な個別指導を行う。

ウ 「理解の能力」について

具体的評価規準 「電話の内容について正しく聞き取ることができる」については、常に正確に聞き取ることができると認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。また、「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だてとしては、聞き取りのポイントについて補足説明するなど必要な個別指導を行う。

エ 「知識・理解」について

具体的評価規準 「電話で用いられる表現を知っている」については、確実な定着が認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。また、「努力を要すると判断される」状況（C）と評価される生徒への指導の手だてとしては、説明をさらに補足するなど必要な個別指導を行う。

なお、「文化についての理解」については、本課では評価しないが、同様の考え方を当てはめる。

(2) 解説

以上に掲げた考え方に基づいて、具体的な評価の例を次に示す。

例えば、本事例では、イ 「電話において、話題や相手に応じて対話を始め、継続し、終わらせることができる。」を評価規準として設けているが、この評価は以下のとおりである。

(1) 具体的評価規準：「電話において、話題や相手に応じて対話を始め、継続し、終わらせることができる。」

- (2) 評価方法：録音チェック・ダイアログチェック
- (3) 評価の手順
 - 第4時間目に電話での対話を録音してチェックする。
 - 第5時間目に友人と電話のやりとりをチェックする。
- (4) 評価の決定
 - それぞれの機会に、対話を始め、継続し、終わらせることができているかどうかをチェックし、
 - できている場合は とする。
 - できていない場合は×とする。

- 【留意】・「表現の能力」を評価する場合は、複数の評価の機会を設ける。
- ・ 2回の評価は次のような場合分けができ、それぞれの「安定性」によりB、C及びAと評価する。
 - ・ が無い場合は、対話を適切に行っているとは認められないのでCと評価する。
 - ・ が一つの場合は、対話を適切に行っていると認められるのでBと評価する。
 - ・ が二つの場合は、「安定的に」対話を適切に行うことができると認められるのでAと評価する。

例：評価機会が2回の場合のモデル

	×	×	××
A	B	B	C

5 観点別評価の総括

本事例における評価の観点ごとの総括については次のように考える。

(1) 考え方

まず最初に、評価の観点ごとに設定された具体の評価規準に照らしてA、B、Cの評価を行う。そして、本事例の「関心・意欲・態度」のように一つの観点に対して一つの具体の評価規準を設定して評価する場合は、その結果が評価の観点の総括となる。また、「表現の能力」のように一つの観点に対して二つ以上の具体の評価規準を設定して評価する場合は、「AAB」ならAというように数の多い方で総括する。なお、「AC」は「BB」と置き換えた上で、「AB」や「BC」のようにその評価結果が同数となる場合については、良い評価の方を取り、それぞれ「A」「B」とするなど、事前に決定した考え方により総括する。

(2) 重み付けをする場合の考え方と観点別評価の総括

具体の評価規準に照らしての評価結果を総括するに当たっては、その課の目標や評価した内容などに応じて適宜重み付けをして総括することもできる。

(例)「表現の能力」の場合

- ・ 具体の評価規準「伝えたい情報や考えなどを留守番電話に正確に残すことができる」(話すこと)の評価が「A」
- ・ 具体の評価規準「電話において、話題や相手によって対話を始め、継続し、終わらせることができる」(対話をする)の評価が「B」であるとする。

本課は「対話をする」を主たる活動としたので、後者の評価をより重視し、後者の評価に重みを置き「B」と総括する。

単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法が可能であり、各学校において工夫することが望まれる。

英語

ここでは、英語における教科書のある1課(以下、本課と称す)を用いて授業を行い、「読むこと」「話すこと」と「書くこと」の三つの「内容のまとめり」において評価する事例を紹介する。この事例における評価は、指導の結果その内容がどの程度身に付いているかを評価するという観点から示したものであり、指導の途中段階あるいは練習段階にある内容については評価を行わない。また、学習指導要領の趣旨に鑑み、コミュニケーション活動を通して評価することとしている。

なお、この事例では、1課を単元と見なすこととする。

本課の名称 「To The Land of Peter Rabbit」(9時間)(第1学年 6月)

1 本課の目標

- (1) 勧誘する場面にふさわしい表現を選択して、話すことができる。
- (2) eメールの内容を正しく読みとる。
- (3) 伝えたい情報を正確に書く。
- (4) ペアワークにおいて、英語で積極的に話す。
- (5) what などの関係代名詞を用いた文の意味・構造を理解する。

2 本課の評価規準

(1) 具体例【読むこと・話すこと・書くこと】

	ア 関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 知識・理解
内容のまとめりの中の該当する評価規準	「話すこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。 (話すこと)	日常的な話題について、得た情報や自分の考えを英語で正しく書くことができる。 (書くこと) 日常的な話題について、場面や目的に応じて適切に話すことができる。 (話すこと)	日常的な話題についての英語を読んで、情報や考えなど相手の伝えようとすることを正確に理解することができる。 (読むこと)	言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。
具体の評価規準	(言語活動への取組) ペアワークにおいて英語で積極的に話している。 (話すこと)	(正確な筆記) 伝えたい情報を正確に書くことができる。 (書くこと) (適切な発話) 勧誘する場面にふさわしい表現を選択して、話すことができる。 (話すこと)	(正確な読み取り) 二人のeメールのやりとりを正しく読み取ることができる。 (読むこと)	(言語についての知識) what などの関係代名詞の意味と用法を理解している。 旅行で用いられる表現を知っている。

(2) 解説

「英語」の評価規準の設定の考え方について

「英語」の評価規準及びその具体例の全体については、本資料の第3「必修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例」に示されている。

「英語」の評価規準及びその具体例を参考として、以下のように、四つの観点ごとに、コミュニケーション能力をとらえる視点を取り上げ、それにしたがって評価規準を設定した。

ア 関心・意欲・態度

コミュニケーションに取り組む様子やコミュニケーションを継続させようとする努力の様子をとらえて以下の二つの視点から具体的評価規準を設定する。

(ア) 言語活動への積極的な取組

情報や自分の考えなどを積極的に相手に伝えようとしたり、相手の考えなどを理解しようとしているかどうか、つまり、コミュニケーションに取り組む構えを評価する。したがって、英語を使用する正確さや適切さ、すなわち、運用上の能力などを評価の対象としない。

(イ) コミュニケーションを継続する努力

コミュニケーションがとぎれそうになる時には、さまざまな手だてを用いてコミュニケーションを継続する努力が必要である。その努力の様子を評価する。

イ 表現の能力

自分の考えや気持ちなどを誤解なく相手に伝えることができるかどうかについて以下の二つの視点から具体的評価規準を設定する。

(ア) 正確さ

リズム、イントネーション、文法などの規則に従って正確に表現できているかどうかを評価する。また、情報の内容に間違いがなく正確に伝わっているかどうかを評価の対象とする。

(イ) 適切さ

実際のコミュニケーションで誤解なく伝えるために、場面や状況に応じてふさわしい表現を選択したり、適切な声の大きさや速さで話したり、整理して必要な分量を書くことができるかどうかを評価する。

ウ 理解の能力

相手の意向や具体的な内容など相手が伝えようとすることを理解できるかどうかについて以下の二つの視点から具体的評価規準を設定する。

(ア) 正確さ

リズム、イントネーション、文法など言語についての知識を活用して、英語の内容を正しく理解できているかどうかを評価する。

(イ) 適切さ

場面や状況、目的に応じた聞き方や読み方をして英語を理解することができるかどうかを評価する。

エ 知識・理解

コミュニケーションを目的として言語を運用する支えになっているかどうかについて以下の二つの視点から具体的評価規準を設定する。

(ア) 言語についての知識

正確さの支えとなるリズム、イントネーション、文法など言葉のもつ仕組みについての知識だけでなく、適切さの支えとなる言語の働きや、場面にふさわしい表現を知っているかなど言語運用面についての知識も評価の対象とする。

(イ) 文化についての理解

社会的知識や百科事典のような内容ではなく、技能の運用の背景としてコミュニケーションに資するものに限って評価する。

以上述べたように、「英語」では四つの観点にそれぞれ二つの具体的評価規準を設定し、そのうち、それぞれの「内容のまとめり」に対応するものが、以下の表の である。

規 準 内 容	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	取 組	継 続	正 確 さ	適 切 さ	正 確 さ	適 切 さ	言 語	文 化
聞く			-	-				
読む								
話す					-	-		
書く					-	-		

(注)・表中の観点や評価規準については紙幅の都合上、省略した形で記述している。
 ・「知識・理解」について表のような示し方をしたのは、単独の内容ごとでなく、この課を通して指導と評価を行うためである。

(3) 課ごとの具体的評価規準の設定の手順について

ここでは、教科書の1課を取り上げて、具体的評価規準の設定の手順について説明する。

ア 「本課の主たる目標」を、それぞれ評価できる観点と評価規準に当てはめる。

最初の目標である「勧誘する場面にふさわしい表現を選択して、話すことができる。」(話すこと)では、「表現の能力」の観点で、「勧誘する場面にふさわしい」とは言語運用に関わることであるから「適切さ」で評価する。

同様に、二つ目の目標は「理解の能力」(読むこと)の「正確さ」の視点から、三つ目は「表現の能力」(書くこと)の「正確さ」の視点から、四つ目は「関心・意欲・態度」(話すこと)の「言語活動への取組」の視点から、そして五つ目は「知識・理解」の「言語についての知識」の視点から評価できるので、この課では、以下の表に示す五つの規準について評価することになる。

場合によっては、一つの目標に複数の要素が含まれていることがある。その場合は分割して当てはめることになる。

この課では、以下の表に示す五つの に対応する観点について具体的評価規準を設定し、指導と評価の計画を行う。

規 準 内 容	関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		知識・理解	
	取組	継続	正確さ	適切さ	正確さ	適切さ	言語	文化
聞く			-	-				
読む								
話す					-	-		
書く					-	-		

イ 本課の主たる目標を具体的な評価規準として表記する。

本課の主たる目標がそのまま具体的評価規準として適切な表現になっているとは限らない。その場合は、単元の指導と評価の計画に対応した具体的評価規準を設定する必要がある。

例えば、四つ目の目標である「ペアワークにおいて、英語で積極的に話す。」は、評価の対象が態度なのか技能なのか分かりにくい。ここでは「関心・意欲・態度」(話すこと)の評価なので、「ペアワークにおいて英語で積極的に話している。」といった観察可能な具体的評価規準としている。

3 指導と評価の計画

(1) 具体例

時間	ねらい・学習活動	具体的評価規準との関連	評価方法等
1	本課で身に付ける技能や理解する内容を知る。 イギリス旅行やピーターラビットへの期待を高める。 ・warm-up として、夏休みの予定について教師と生徒が話している対話を聞く。 ・本課で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・イギリスや旅行に関して教師の英語の質問に答える。 ・ペアでイギリスや旅行について尋ねあう。 ・地図や写真を見ながら英語による説明を聞き、イギリスやピーターラビットについての背景知識を高める。 ・eメールを速く読むための読み方を理解する。 ・簡単なeメールを速く読む練習をする。	アの	方法：活動の観察 手順：ペアワークにおいて英語で話しているかどうかを観察する。 判断：話していれば と評価する。

			(話しやすい雰囲気を作る)
2	<p>適切な速さでメールを読み取ることができるように練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次のリーディングポイントに従って2分以内で読んで、ワークシートに記入する。 (ア) 次の行く先はどこですか。 (イ) その理由は何ですか。 (ウ) ポーラはそこへ行ったことがありますか。 (エ) マコトへのアドバイスは何ですか。 <ul style="list-style-type: none"> Take care などメールによく用いられる表現を理解する。 教科書を用いて、メールの内容を日記の形でまとめる。 テープを聞いて天気予報を書き込む。 天気予報について、教師の質問に答える。 		
3	<p>適切な速さでメールを読み取ることができる。二人のeメールのやりとりを正しく読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに書かれたeメールを、三つのリーディングポイントに従って、2分以内に読み取る。 本文をCDで聞いて具体的な内容を推測する。 次のリーディングポイントに従って読んで、ワークシートに記入する。 (ア) ホテルまでの交通手段は何ですか、すべてあげなさい。 (イ) 分かれる前にバスと何をしましたか。 (ウ) ホテルから何が見えますか。 (エ) ポーラ先生はどこへ行きたいのですか。 <ul style="list-style-type: none"> Till tomorrow などメールによく用いられる表現を理解する。 教科書を用いて、メールの内容を日記の形でまとめる。 マコトとフロント係との会話をCDで聞いて教科書の質問に答える。 答えを確認する。 	ウの	<p>方法：ワークシートチェック 手順：リーディングポイントを書いたワークシートを配布し、答えを記入させる。 判断：ここでは、三つ以上を読み取れていれば と評価する。 (文構造などを個別指導する。)</p>
4	<p>英語を用いて、電話でホテルを予約したり、切符を買うことができる。 ペアワークにおいて英語で積極的に話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホテルの予約の場面をCDで聞く。 電話でホテルを予約する時によく用いられる表現を理解する。 教科書の例を用いて発音練習をする。 ペアで対話をする。 状況を変えていくつかのペアがロールプレーをする。 切符を買う場面をCDで聞く。 切符を買う時によく用いられる表現を理解する。 教科書の例を用いて発音練習をする。 ペアで対話をする。 状況を変えていくつかのペアがロールプレーをする。 	エの	<p>方法：後日ペーパーテスト 下に示す。 (説明を繰り返したり補足説明を行う。)</p>
5	<p>適切な速さでメールを読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次のリーディングポイントに従って2分以内で読んで、ワークシートに記入する。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞を用いた文の意味・構造を理解する。 ・関係代名詞を用いた文を書く練習をする。 ・S+V+O+to ~を用いた文の意味・構造を確認する。 ・勧誘する時の表現を理解する。 ・それらの表現を用いて置き換え練習をする。 ・パブの店員になったつもりで食事や飲み物を勧める場面を設定して、ペアで対話をする。 <p>・いくつかのペアが発表する。</p>	<p>エの</p> <p>アの</p>	<p>方法：後日作文チェック・ペーパーテスト 後日の欄に示す。 (説明を繰り返したり補足説明を行う。)</p> <p>方法：活動の観察 手順：ペアワークにおいて英語で話しているかどうかを観察する。 判断：発話していれば と評価する。 (話しやすい雰囲気を作る。)</p>
9	<p>メールを使って、伝えたい情報を正確に書くことができる。 英語で勧誘することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勧誘する場面をいくつか設定して、ペアでロールプレーをする。 <p>・ホテルを予約するために、日時・期間・部屋のタイプを伝えるメールを書く。</p>	<p>イの</p> <p>イの</p>	<p>方法：ロールプレーチェック 手順：ロールプレーで、勧誘する場面にふさわしい表現を選択して、話すことができるかどうかをチェックする。 判断：ふさわしい表現を選択して話すことができていると評価する。 (定型表現などを個別指導する。)</p> <p>方法：作文チェック 手順：ホテルを予約するメールに、日時・期間・部屋のタイプを入れてメールを書いているかどうかをチェックする。 判断：ここでは、半数以上の情報を正しく伝えていれば と評価する。 (単語を提示するなど書く材料を与える。)</p>
後日	<p>教師と英語で対話を行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備してきた仮想の旅行の勧誘を教師に対して行う。 ・教師の返事に対して適切に応答する。 	<p>イの</p> <p>エの</p>	<p>イの について 方法：ダイアログテスト 手順：教師との対話において、勧誘する場面にふさわしい表現を選択して、話すことができるかどうかをチェックする。 判断：ふさわしい表現を選択して話すことができていると評価する。</p> <p>エの について 方法：ダイアログテスト 手順：教師との対話で、旅行で用いられる表現を使っているかどうかをチェックする。 判断：用いていれば、知っているとして とする。 (知っているが使えないのかどうかを見極めて、知らない場合</p>

	<p>作文課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞を用いてイギリスやピーターラビットについて説明する文を書く。 	Eの	<p>は再度説明する。)以上2点を評価表/チェック表にまとめて評価する。</p> <p>方法：作文チェック 手順：関係代名詞を用いて作文し、関係代名詞を理解しているかどうかをチェックする。 判断：理解している場合は と評価する。 (説明を繰り返したり補足説明を行う。)</p>
	<p>定期テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与えられた場面に応じて、語句を並べ換える問題 	Eの	<p>方法：ペーパーテスト 手順：ペーパーテストを実施する。 判断：並べ替えができている場合は と評価する。 (説明を繰り返したり補足説明を行う。)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を与えて適当な表現を選択する問題 	Eの	<p>方法：ペーパーテスト 手順：ペーパーテストを実施する。 判断：選択できている場合は と評価する。 (説明を繰り返したり補足説明を行う。)</p>

(注)・「ねらい・学習活動」の欄の 印は各単位時間のねらいを、・印は具体的な学習活動を表している。

- ・()内は「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だての例を示している。
- ・各時に示されている評価方法等は、すべてをその時間内に評価することを意味しているわけではなく、ワークシートや作文をチェックすることや後日ペーパーテストなど授業後に別の機会に行う場合もある。

(2) 解説

評価計画の作成の仕方とその際の配慮事項

設定した具体の評価規準を使って、指導過程のどの部分で、どのような方法で評価するのかを、指導と評価の一体化を図りながら工夫する必要がある。次に、その際に配慮すべき点を説明する。

ア 評価は指導した活動(内容)に関してのみ行うものである。

実現の状況の評価するのであるから、評価する前に十分に指導し練習をさせておかなければならない。したがって、第1時間目から「表現の能力」や「理解の能力」を測ることはしないで、コミュニケーションへの取組の様子である「関心・意欲・態度」の観点の評価している。また、第2時間目や5時間目は指導だけを行う時間として、まったく評価場面を設定してない。

「表現の能力」の具体の評価規準「勧誘する場面にふさわしい表現を選択して、話すことができる。」は、第9時間目のペアでロールプレーをする場面と後日教師とのダイアログの場面で評価するが、その前の段階である第8時間目で、生徒に勧誘に関わる表現を学習させ、それらの表現を用いた置き換え練習や場面を設定したペアワークなどを十分にさせている必要がある。

イ 適切な方法で評価する。

評価する際には、評価対象を的確に評価しなければならない。そのためにはその対象を測るのにもっともふさわしい方法を用いる必要がある。

事例の中では、様々な生徒の活動を通してコミュニケーション能力を評価しようとしている。

例えば、生徒の活動の様子を観察する方法、ワークシートを課してそのシートをチェックする方法、さらに、実際に録音させてテープをチェックする方法を用いるなどの工夫をしている。

とりわけ、知識については、まずパフォーマンスをさせて、その際用いられている音声や文法、表現などをみることで、それらの知識が備わっているかどうかを判定する。ただ、知識があっても直ちにその知識を運用できないこともあるので、それをみるためにペーパーテストを用いる。

- ウ それぞれの評価規準については、信頼性を高めるために複数回の評価の機会を設定する。
 具体的評価規準に照らして評価を行う際には、複数回の評価を行う必要がある。なぜなら活動内容、話題、相手などにより、パフォーマンスは異なった現れ方をするからである。
 そこで、この事例の中ではすべての具体的評価規準について複数回の評価の機会を設定している。
- エ その他
 本事例では、一つのモデルとして、1課ですべて完結した場合を示している。しかしながら、安定性や確実性を高めるために、かなりの時間を要する場合は、複数課にまたがって、継続的に指導して評価を行うことが望ましい場合もある。

4 観点別評価の進め方

(1) 考え方

具体的評価規準は、「おおむね満足できると判断される」状況(B)を示すものとして設定しており、この状況を実現すれば(B)となり、そうならなければ「努力を要すると判断される」状況(C)となる。

具体的評価規準に照らして「十分満足できると判断される」状況(A)の例及び「努力を要すると判断される」状況(C)の生徒への指導の手だてを以下に記述する。

ア 「関心・意欲・態度」について

具体的評価規準 「ペアワークにおいて英語で積極的に話している」については、常に積極的に話していることが認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する。また、「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だてとしては、話しやすい雰囲気をつくったり、定型表現を説明したり、話し方のヒントを与えたりする。

イ 「表現の能力」について

具体的評価規準 「伝えたい情報を正確に書くことができる」については、常に正確に書くことができると認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する。

具体的評価規準 「勧誘する場面にふさわしい表現を選択して、話すことができる」については、常にふさわしい表現を選択して話すことができると認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する。また、「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される評価の生徒への指導の手だてとしては、単語を提示するなど書く材料を与えたり、勧誘表現の説明を繰り返したり補足説明をするなど必要な個別指導を行う。

ウ 「理解の能力」について

具体的評価規準 「二人のeメールのやりとりを正しく読み取ることができる」については、常に二人のeメールのやりとりを正確に読み取ることが認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する。また、「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だてとしては、単語や文構造など内容理解を助ける説明をしたり、読むときのポイントの見つけ方を説明するなど必要な個別指導を行う。

エ 「知識・理解」について

具体的評価規準 「what などの関係代名詞の意味と用法を理解している」については、評価できるまで確実な定着が認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況(A)と評価される。

具体的評価規準 「旅行で用いられる表現を知っている」については、運用できるまで確実な定着が認められる場合は、「十分満足できると判断される」状況(A)と評価する。また、「努力を要すると判断される」状況(C)と評価される生徒への指導の手だてとしては、説明を繰り返したり補足説明を加える。さらに例示を増やすなどして理解を図る。

なお、「文化についての理解」については、本課では評価しない。

(2) 解説

以上に掲げた考え方に基づいて、具体的な評価の例を次に示す。

(1) 具体的評価規準：「ペアワークにおいて英語で積極的に話している。」

(2) 評価方法：ペアワークの観察

(3) 評価の手順 第1時間目に観察する。
 第7時間目に観察する。
 第8時間目に観察する。

(4) 評価の決定

それぞれの機会に、ペアで英語を用いて話しているかどうかを観察し、
 話している場合は、○とする。
 話していない場合は、×とする。

【留意】・「関心・意欲・態度」を評価する場合は、複数の評価の機会を設ける。

・3回の評価は次のような場合分けができ、それぞれの「安定性」によりB、C及びAと評価する。

- ・ここでは、3分の2の機会が発話していれば、つまり、 が二つの場合は「おおむね満足できると判断される」状況（B）、二つに満たない場合は「努力を要すると判断される」状況（C）と評価した。なお、このような実現状況の評価は、各学校が、生徒の実態等に応じて評価することとなる。

が三つの場合は、「安定的に」発話していると認められるので、「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する。

例：評価機会が3回の場合のモデル

	x	x	x	xx	x x	xx	xxx
A	B	B	B	C	C	C	C

5 観点別評価の総括

本事例における評価の観点ごとの総括については次のように考える。

(1) 考え方

まず最初に、評価の観点ごとに設定された具体の評価規準に照らしてA、B、Cの評価を行う。そして、本事例の「関心・意欲・態度」のように一つの観点に対して一つの具体の評価規準を設定して評価する場合は、その結果が評価の観点の総括となる。また、「表現の能力」のように一つの観点に対して二つ以上の具体の評価規準を設定して評価する場合は、「AAB」ならAというように数の多い方で総括する。なお、「AC」は「BB」と置き換えた上で、「AB」や「BC」のようにその評価結果が同数となる場合については、良い評価の方を取り、それぞれ「A」「B」とするなど、事前に決定した考え方により総括する。

(2) 重み付けをする場合の考え方と観点別評価の総括

具体の評価規準に照らして評価結果を総括するに当たっては、その課の目標や評価した内容などに応じて適宜重み付けをして総括することもできる。

(例)「表現の能力」の場合

- ・評価規準「伝えたい情報を正確に書くことができる」の評価が「A」
- ・評価規準「勧誘をする場面にふさわしい表現を選択して、話すことができる」の評価が「B」であるとする。
- ・後者は言語の使用場面として指導計画に位置付けられているので、そうした計画に基づいて指導内容としてより重視されている。そこで、後者の評価に重みを置き「B」と総括する。

単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法が可能であり、各学校の実情に応じて工夫することが望まれる。